

進研7月記述模試 自己採点結果から

7月1日(土)に実施された、進研模試(7月記述)の自己採点集計結果を報告します。6月マーク模試では、比較的良好な結果を残しましたが、記述模試の手応えはどうでしたか? マーク模試ほどの正確な自己採点は難しいわけですが、解答・解説集を熟読しながら自己採点をすることにこそ(=しっかりと復習することにこそ)重要な意味があります。まだ提出していない人は、一刻も早く自己採点という名の復習をしてください。受けっ放しの模試に、意味はありません。

皆さんの自己採点結果を見ると、ハイレベルな記述模試への対応力はまだまだ力不足の人がほとんどです。マーク模試にはある程度対応できるようになってきたわけですから、学習の方向性が間違っているわけではありません。4月以降の模試結果等を踏まえて、各自の弱点克服をテーマにした学習計画を立て、この夏を乗り切りましょう。

次の学校参加の模試は、8月27日(日)実施の河合塾第2回全統記述模試です。さらに、前期期末考査後の9月16日(土)には第1回駿台ベネッセ共催模試(マーク式)が控えています。この夏の成果が試されます。目標にしてください。

◆表1: 教科目別 自己採点結果状況

	国語 (200)	数学X (200)	数学Y (200)	数学Z (200)	英語 (200)
平均点	82.1	70.7	61.8	60.9	74.0
受験者数	267	52	75	64	282
最低点	20	5	18	0	19
最高点	148	139	156	122	178

	世界史B (100)	日本史B (100)	地理B (100)	倫理政経 (100)	政治経済 (100)	現代社会 (100)
平均点	45.0	43.7	39.7	45.4	41.2	43.7
受験者数	45	117	73	25	33	34
最低点	7	12	18	17	13	22
最高点	92	86	67	76	77	58

	化学基礎 (50)	生物基礎 (50)	地学基礎 (50)	物理 (100)	化学 (100)	生物 (100)
平均点	30.2	19.0	23.2	31.4	38.9	41.7
受験者数	49	74	64	44	79	44
最低点	8	5	9	2	10	18
最高点	50	38	41	72	86	76

- *1. 教科目名の下()内の数値は「配点(満点)」。
- *2. 表中の数値は、7月14日(金)までの提出分で算出。
- *3. 校内受験者数が5名未満の科目(ex. 倫理、物理基礎)については割愛。

ベネッセのデータにみる合格の目安

皆さんは今年度だけでも、ベネッセコーポレーションが主催する「スタディーサポート」「進研模試」「駿台ベネッセ共催模試」を計6回受験します。次の表は、ベネッセのデータにみる主な国立大学群の合格の目安です。各自の目標設定等で参考にしてください。

◆表2: おもな大学群の合格の目安

大学群	スタサポ	6月マーク (5教科得点率)	9月マーク (5教科得点率)	10月記述 (2次偏差値)	センター本番 (900点満点)
東京、京都	S1	80% 英語・数学は9割	85%	SS75	800 …90%弱
旧帝大 (北海道、東北 etc.)	S3	70% 英語・数学は8割	75%	SS65	720 …80%
埼玉	A3以上	55% 英語は7割	60% 国数英を 仕上げる	SS55	620 …70%弱
国公立大下限	B2	50%	55%	SS48	560 …60%強

- *1. 各欄の目安となる数値は、ベネッセコーポレーションによる。
- *2. 「スタサポ」の欄の記号は、国数英3教科の学力到達ゾーン(GTZ)のもの。
- *3. 「10月記述」の欄のSSは偏差値(standard score)。
- *4. 「センター本番」の900点満点とは5教科7(8)科目合計の950点満点を修正した数値。

夏休み中、獨協大学図書館で勉強できます!

河合塾の全統模試や大学入試センター試験の会場にもなる獨協大学(埼玉県草加市)の図書館が夏休み中(7/29~、9:00~20:00)高校生に公開されます(日曜・祝日、8/10~17は休館)。大学図書館には、高校までの図書室とは違った厳かな雰囲気があります。夏休み中の一日、そうした中で受験勉強に励むのもよいでしょう。いち早く“大学”を体感できるチャンスでもあります。「学習場所を探している」という人は参加してみたいかですか? 詳細は、獨協大学のHPで確認してください。

進路コラム: 近年の入試動向から④ ~広がる英語外部試験利用入試~

今、日本では観光立国や2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、急速に国際化が進展しています。大学入試にもこの波が押し寄せてきていて、「英語外部試験(ex. 英検、TEAP、GTEC、TOEFL、TOEIC)利用入試」の導入が拡大傾向にあります。これは新たにライティングとスピーキングの技能を受験生に課すことを意味しています。つまり、これからは「伝える英語力」が大学入試でも要求されるようになっていくのです。日々の学習で「音読」等がこれまで以上に重要になってくることは言うまでもありません。入学後は、多くの大学では留学を始めとする様々な語学強化プログラムを準備しています。英語で授業を行う講座も急速に広がり、スタンダードになりつつあります。学んだこと、自分の考え、ニッポンのことを英語で伝える。そんな「伝える英語力」を皆さんに身に付けて欲しいと大学、社会は考えています。自分の可能性を狭めないためにも、将来の選択肢を減らさないためにも、英語学習にはしっかりと取り組んでください。